

一主婦からの新発田市政通

皆様これで良いですか

発行者 青木三枝子（市政を考える会）

新発田市御幸町 3-1-21

TEL 0254-26-8334

平成 26 年 2 月 18 日 第 16 号

1 当初予算が甘かったことを認めました

駅前複合施設建設が 33 億円で建設できるという行政に対し、財源の裏づけの説明をして欲しいという議員の要望に応じて、2 月 4 日に総務常任委員会が開催されました。その質疑応答の内容の一部をお伝えします。

(質問) 22 億 5 千万円の予算に合わせて業者が設計したと思うが、結果は倍の費用となっている。何故、40 億円以上かかる 4 階建ての設計となったのか。もともと見積もりに無理があったのではないか。

(回答) 22 億円 5 千万円を前提にしたワークショップの議論ではなく、まず、市民要望に応えた結果で 4 階建てとなった。また予算増大は、資材や労賃の高騰、備品の予算が含まれていなかった事もあるが、雨雪の対策を求める市民の要望に応えた結果、一階の一部を駐車場にした事も予算増大の要因となった。概算は公共事業の単価で行った。精度の高い概算ではなかった。

(質問) 4 階建てで基本設計を作ったとしても、もし予算的に無理というのであれば、予算内で論議すべきであった。ワークショップの中で、すり合わせをしておこなったのではないか。甘い夢を見させただけで審査会を終了してしまい、ワークショップの意義がないのではないか。

(回答) 予算内で全ての要望を取り入れる事が出来るかどうか分からないことはワークショップの方々にも伝えていた。

(質問) 何故 33 億円で建設でき 40 数億円では建設できないのか

(回答) 健全財政を維持するためには、市の基金 30 億円を維持する必要があります。予算が 10 億円増えると、市の負担は約 1 億 7 千万円増え、基金 30 億円を割ってしまい健全財政が保てない。予算が 33 億円であれば健全財政を維持できる。

(質問) そもそも 22 億 5 千万円で建設できるとした予算自体が甘かったのではないか。

(回答) 国も補助事業を検討するなかで、これ位でいけるのはとすることで予算を組み立てた。甘かった面がある。申し訳ない。

(質問) 地元建設業者が技術的に建設できないような工事方法にしないで欲しい。

(回答) 特殊なものを使わず、地元業者が建設できる方法にする。

(質問) 今後費用は増える事はあっても減る事はないと思う。33 億円で建設可能なのか。

(回答) 予算が増大し、他の事業に影響するのであれば調整が必要となる。

以上のような質疑応答の中で、行政側が駅前複合施設建設を平成 27 年度中に建設すると述べました。3 月議会でのどのような議論となるのでしょうか。市民の皆様も議会を注視して下さい。

記載した質疑応答の内容は、私が委員会を傍聴しメモした内容を

大まかにまとめたものです。詳細は議事録で御確認下さい。

2 振り回されている新発田市民

① 駅前複合施設建設予算の 22 億 5 千万円という概算が甘かった事を行政が認めました。駅橋上化が 38 億円かかると言って反対し当選した二階堂市長です。その 38 億円に匹敵する予算が駅前複合施設建設に使われようとしているのです(橋上化は約 8 億円で出来たそうです)。この事は、市長のリコールにも値する事だと思います。新庁舎建設予定地を決める際には、現予定地の方が現庁舎近郊に建設するより 4 億円安いとしたアンケートで民意を問いました。その当初予算 57 億円が今では 70 億円にもなっています。資材等の高騰だけが予算増大の原因ではありません。このように精度の低い予算によって振り回されているのが新発田市民だと思います。

② 基本設計について、市民の要望に応えた結果であると行政側が述べています。要望に応えたというのであれば、時間をかけて最後まで市民の声に耳を傾ける必要がありました。市民が積み上げてきた案 4 階建てを 3 階建てに変更する事を、予算不足を理由に行政と審査会だけで短期間で決定し、最後のワークショップが報告説明だけになったのは市民への裏切り行為です。予算不足によって計画を変更するのであれば、その事を説明し、予算内で何を優先すべきかを市民と共に再検討する必要があります。都合のよい時だけワークショップを市民の声として、行政の言い訳に使われ答弁される事に抵抗感を覚えます。

③ これまで健全財政を維持してきたという新発田市ですが、今では危うい状態であることがわかりました。二階堂市政が身の丈に合った市政運営をしていないからだと思います。

3 必要時に機能する消雪パイプであって欲しい

この通信を駅前配る為、2 月 6 日の朝 6 過ぎに新発田駅前に向かいました。雪の量は少ないのですが、道路は凍結していました。肝心の消雪パイプは機能せず、走行中の車はスリップしていました。駅前には送迎の車で混雑し、衝突事故が起こらないかとハラハラしていました。不必要な時に消雪パイプの水がいつまでも出ている事がある一方で、凍結時など必要な時に機能していないのです。消雪パイプの小さな出水口を掃除し均等に水が出るようにする必要があります。新しく消雪パイプを設置するばかりではなく、今ある物をいかに機能させるか対策を講じる必要があります。

(あとがき)

早朝、駅前街頭で通信を手渡す時、とても素敵な笑顔で受け取って下さる若い女性がいます。思わぬ方が読んでいますと声をかけて下さいます。頑張っているねと励まして下さる方がいます。この場所で、この時間に、見知らぬ方との多くの出会いがあり感謝です。